

# この人をチェック!

## 「全国大会でリードを引いて歩けるだけで幸せ。」

中嶋亮介さん(畔藤)

9月10日、11日の2日間にわたり、山形県家畜協同組合山形中央家畜市場で開催された「第46回山形県畜産共進会(※)」。この大会において、中嶋亮介さん(畔藤)の出品した乳用牛「センターブラック・スパークリング・チブチブ」が、10月23日から4日間、北海道で開催される第14回全国ホルスタイン共進会へ山形県代表として推薦されました。

就農から今年で8年目の中嶋さん。10年ぶりに開催される全国大会出場を目標に大切に育ててきました。中嶋さんは、「全国大会が開催されるのは10年ぶりなので、出場できるだけで幸せ」と喜びを語った後、「できれば上位入賞も」と、内に秘めた目標を語られました。



(※) 乳用牛の改良と酪農経営の安定を図ることを目的とした品評会

## 「自慢の作品を出品するのが楽しい。」

横山正弘さん(鮎貝)



9月12日、13日と宮城県仙台市で開催された第19回おきたまフラワーショーにおいて、花の形や色、害虫の有無などを審査する品評会審査会が13日に行われ、横山正弘さん(鮎貝)が出品したダリア(品種名:黒蝶)が、最優秀賞である山形県知事賞に選ばれました。

6年前にダリアの栽培を始めた横山さんは、「いろいろな作品が集まる品評会はお祭りのようで、出品するのが楽しい」と、ていねいに育てた自慢のダリアを、毎年出品してきました。今年、横山さんの畑では、7品種、約3000株のダリアを栽培。「町内でもダリアがつくられていることを、たくさんの人に知ってほしい」と、話してくれました。